

学会レポート： 日本公衆衛生学総会 県民公開講座

Reported by Sako Narita

10月23日(金)@奈良県新公会堂 13時30分～15時30分

青木理事長による“奈良県における救急医療の資格化「医療濃度」に基づいた救急医療計画”



秋晴れの心地よい午後、奈良公園の一角に構える奈良県新公会堂で、日本公衆衛生学総会最終日の午後、県民公開講座が開催されました。

能楽堂の中で行われた県民公開講座でした。(発表者は全員靴を脱いでスリッパに履き替えなければなりませんでした。)

演出者は川崎医療福祉大学・川崎医科大学の小濱啓次先生、奈良県立医科大学第一内科学の齋藤能彦先生、奈良県福祉部健康安全局長の武末文男先生、そして、CHORD-J の青木則明理事長でした。議題は「地域の救急医療を守るー地域における、地域全員による。地域を守るための救急医療を実現するために」で、各先生方が日本・地域の救急医療についてお話しされました。CHORD-J の青木は奈良県の救急医療の取り組むべき点に関して、医療濃度を使って説明させていただきました。



県民公開講座ということで、一般に方々の姿もチラホラとみられましたが、大体が救命救急・公衆衛生・地域医療に関係した方々だったように思います。

CHORD-Jの青木は講演の中で、救急医療をバトンリレーを使って、今、何が必要で、何が欠けていて、理想を実現するためには何をすべきなのかを非医療従事者にもわかるように説明させていただきました。

一言で地域の救命救急医療と言っても、各々の専門性や地域医療へのアプローチの仕方によって考えも姿勢も全くちがったものになるのだなと実感しました。それがたとえ違っていても、根本にある“地域医療、救急医療の向上”というベクトルが同じ方向を向いているのであれば、何か協力しあって地域のためになることができるのではないかなと思いました。